



山裾に広がる 円山公園(札幌市)

森林インストラクター
小沢 信行 (おざわ のぶゆき)

十勝管内足寄町出身。1978年北海道新聞社に入社。記者として函館、釧路、小樽などで勤務。編集委員、論説委員などを勤め2017年退職。日本森林インストラクター協会会員。道新文化センターで樹木観察の講師を務める。著書に「こうしてできた北の銅像」。

国の天然記念物に指定されるほど自然豊かな札幌市中央区の円山(225^m)。その裾野に広がるのが円山公園です。毎春、花見の名所としてにぎわいますが、見ごたえがあるのはサクラだけではありません。

入り口で出迎えるのは2本の大きなアサダ。まっすぐ進むとカラマツ林、右へ折れるとアカナラ並木が待っています。坂下野球場から動物園へつながらる遊歩道の近くにはカツラの太木があり、その先の木道沿いにはスギが林立しています。

付近で育った作家の渡辺淳一さんは「少年期は虫を採り、ザリガニを探し、冬はスキーに興じていた円山公園一帯は、青年期とともに、恋を語る散策の場になり、ときには公園の奥に広がる自然林にまで足をのびした」(「渡辺淳一全集 第24巻」角川書店)と回顧しています。



入り口近くにある大きなアサダ

試験的に植えたスギ

円山公園はかつて樹木の試験栽培地でした。植林事業を推進する開拓使は、北海道の気候に適した樹種を選定するため1880年、この地に円山養樹園を開設します。

アカマツ、ウルシ、クヌギなど道外に自生する樹木のほか、ニセアカシア、ユリノキなど北米原産の樹種も植えられました。現在のスギ林もカラマツ林もその名残です。

スギは本州以南ではよく目にする日本の代表的な樹木です。まっすぐ伸びることから、「直な木」が名前の由来だといわれています。その特性を生かし、建築材や船舶材として使われています。

ちぎるといいにおいがする葉は、昔から線香の材料でした。木材には鎮静作用があり、スギの部屋はリラックス効果が期待できます。酒樽の材にも活用され、日本酒の風味を出すのにも貢献しています。

戦後、伐採で荒廃した山林を復活させるため、成長の早いスギが植林されました。その結果、国内の人工林ではスギが最も多く44%を占めています。これが花粉アレルギーの原因ともなっています。

北海道での植林は道南を除き普及しませんでした。円山ではスギ林が異彩を放っています。夏の昼下がり、林の中を歩くとさわやかな気分になるのは、ス



札幌では珍しいスギ林

ギが香り成分を放出しているからです。ストレスを解消するには絶好の散策コースです。

7月上旬からは散策の途中、林内でウリノキの花に出会うことができます。下向きに白く伸びた花弁が外側に巻き上がると、黄色い束状の雄しべと白い雌しべが現れます。

そして散る際は、雌しべを残して雄しべと花弁がそのまま抜け落ちます。1個の花の寿命は短いですが、1本の木の中で開花時期をずらしながら、20日間ほど咲き続けます。

ウリの葉に似ていることから、この名前が付けられました。北海道から九州にかけ、林内の土壤水分が高い所で育ちます。大きな葉の下で隠れるように咲く個性的でかれんな花です。



かれんな花を付けるウリノキ

カツラは森の主

スギとは対照的に円山周辺に自生しているのがカツラです。山地の沢沿いを好む日本の固有種。花も葉も美しく印象に残る樹木です。

4月中旬、葉が出る前に紅色の花が咲きます。雌雄異株で、花弁もがくもない小さな花ですが、ほかの木々が芽吹かないこの時期、カツラの多い円山の斜面は一面薄赤く染まったように見えます。

遅れて開く葉はかわいらしいハート形です。枝の同じ場所から対になって出ます。遊歩道近くの円山川沿いにはカツラの幼木があり、水面の上に枝を広げ、そこに規則正しく並ぶ葉は優美な趣があります。

また、秋には葉が黄色くなり、山の紅葉にアクセントを与えます。葉が落ちると、今度は枯葉からカラメルのような甘い香りが漂います。カラメルに含まれるマルトールという物質が生成されるからです。昔から好まれ、香料として使われてきました。このため、「香出ら」がカツラの語源だとされています。

円山は巨木が多い地域です。根元から幹を複数出す株立ち樹形で、高さ20~30m、直径2m以上に成長し、森の主のような存在です。



円山に自生するカツラの巨木

見上げる島義勇の碑

円山動物園へ向かう市道脇に立っているのが島義勇の記念碑です。島は1869年11月、開拓判官として札幌に入りました。そして円山から札幌の地を一望し、街づくりの計画を立てます。

しかし、食糧不足で出費がかさんだことから召還の命令が下り、3カ月後の1870年2月、札幌を離れます。1874年には故郷の佐賀県で新政府に抗議する佐賀の乱を主導し、処刑されました。その後、大赦^{*1}となり、1916年には従四位^{*2}が贈られます。

記念碑建設の運動が起こったのは1929年。島の功績が道民の記憶から薄れていくのを嘆いた市会議員の松田学が发起人総代となり、各方面に寄付を働きかけます。松田は商業会議所会頭、定山溪鉄道初代社長、衆議院議員、市会議長を歴任した札幌の有力者でした。

1930年9月28日の除幕式には約500人が出席、島の孫が幕を引くと、見上げるほど大きな碑が現れました。高さ8.2メートル、幅2.1メートル、厚さ0.5メートル、重さ22.5トンの仙台石で、石碑としては国内屈指のスケールです。

そこに約500字に及ぶ碑文を書いたのは、元北海道庁長官で貴族院議員の中村純九郎です。佐賀の乱で少年隊として島の下で戦った人物でした。

左手奥の副碑には寄付した298の個人・団体名が刻まれ、最後に松田の名前が登場します。その後には「外三千二百八十一名」と書かれています。いかに賛同者が多かったかがうかがえます。



高さ8.2メートルに及ぶ島義勇の碑

金メダリストの跳躍姿

円山競技場と円山球場の間に南部忠平顕彰碑があります。札幌生まれの南部さんは1932年、ロサンゼルス五輪の陸上男子三段跳びで金メダルに輝きました。日本の陸上では2人目の快挙でした。

この偉業をたたえる碑の建設が具体化したのは、東京五輪が開催された1964年です。当時の町村金五北海道知事や原田興作札幌市長、伊坂員維北海道体育協会（現北海道スポーツ協会）会長ら13人が発起人となり同年5月、南部忠平氏顕彰会が発足します。

事務局長として実務を取り仕切ったのは川崎静一郎札幌陸上競技協会会長でした。400万円の資金を集めるため、道や市に協力を要請したり、全国の陸上関係者に募金を呼びかけたりしました。

制作を請け負ったのは南部さんと旧北海中で同期生だった彫刻家の本郷新さん。川崎さんは「謝礼は、石碑の運搬費程度であったように思います」（「世界へ跳ぶ 南部忠平さんを偲んで」南部忠平記念財団）と旧友の協力に感謝しています。

除幕式は東京五輪と連動させるため、聖火が空路で千歳に入る9月9日に行われました。南部さん夫妻や顕彰会の関係者らが出席し、川崎さんの3女が幕を引くと、ロサンゼルス五輪で優勝した跳躍フォームのレリーフが現れました。



跳躍姿の南部忠平顕彰碑

* 1 死罪などの重罪をも許したこと。
* 2 日本の位階及び神階における位のひとつ。

南部さんは「北海道からオリンピックチャンピオンを発掘し、育てるのが皆さんのご厚意に報いるただ一つの道だと思います」と謝辞を述べました。

東京五輪の日本陸上競技チーム監督を務める南部さんは翌日、札幌での聖火歓迎セレモニーや道内の五輪出場選手を送る集会に参加、五輪ムードの演出にも一役買いました。

除幕式での決意表明は残念ながら、存命中には実現しませんでした。それから60年後の2024年、旭川出身の北口榛花さんがパリ五輪の女子やり投げで金メダルを獲得。女子のフィールド種目では日本初の偉業を達成し、北海道ばかりでなく日本国中を沸かせました。

碑の隣には「栄光の樹」

南部忠平顕彰碑に向かって左側に珍しいドングリの木があります。1936年、ベルリン五輪の陸上男子三段跳びで金メダルを獲得した田島直人さんに、副賞として授与されたドイツ栂(ヨーロッパナラ)の子孫です。

田島さんはこの年、京都帝国大学を卒業し、砂川町(現上砂川町)の三井砂川鉱業所に勤めていました。三段跳びの日本代表に選ばれ、織田幹雄さん、南部忠平さんに続き、日本勢の五輪3連覇を果たします。

持ち帰った苗木は母校で大切に育てられ、実をつけるまでになりました。田島さんの職場の後輩らがそれを譲り受け、育てた上げた苗木を1995年、「栄光の樹」として東京の三井グループのグラウンドに植樹しました。



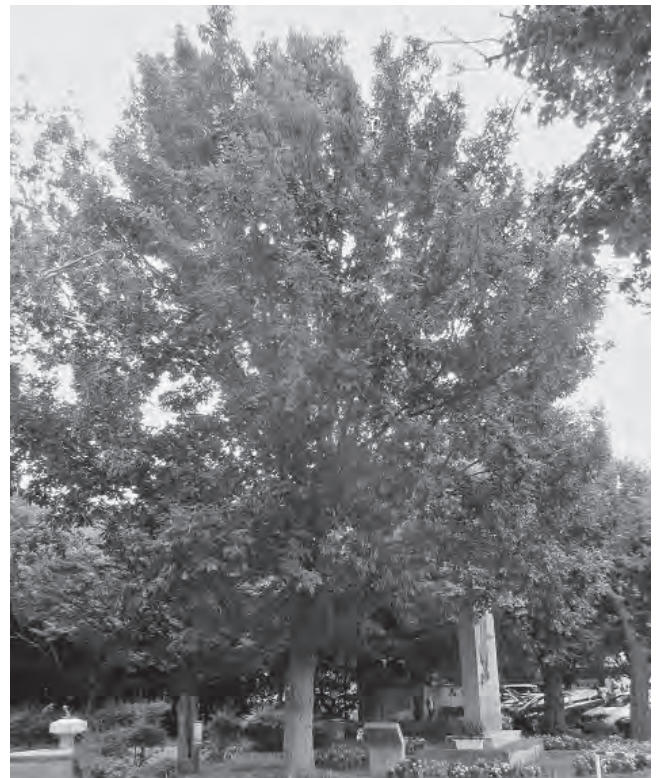
ヨーロッパナラのドングリ

これがきっかけとなり、普及活動が全国各地に広がります。札幌では北海道学生陸上競技連盟など陸上関係者が尽力した結果、円山競技場がかつて田島さんの練習の場でもあったことから、南部さんの顕彰碑の隣が植樹場所に選ばれました。

1997年7月4日に植えられた苗木は、今では顕彰碑を上から覆うほどの高さに成長。秋には、この木の特徴である長い柄の付いたドングリをたくさん実らせませす。

田島さんは自著「根性の記録」で、「いままで日本が生んだ選手の中で、いちばん大選手らしい選手はだれであろうと聞かれたら、たいていの人は南部選手と答えるにちがいない」と書いています。そして南部さんの存在を「大輪のひまわり」に例えています。

華々しい一時代を築いた2人の金メダリスト。顕彰碑と「栄光の樹」が並ぶこの地は、三段跳びの選手にとっては聖地かもしれません。



顕彰碑の脇に立つ「栄光の樹」